

病虫害発生予察情報

令和5年7月31日

病虫害発生予察情報（飛騨地域） 8月予報

高温・少雨傾向で推移していますが、近年の8月の天気は不安定で長雨があったり、夕立の発生も予想されるので、水稻のいもち病や野菜類の灰色かび病等に注意しましょう。

高温乾燥が続く場合は、水稻・果樹類のカメムシ類、ハダニ類やアブラムシ類等の害虫の増加にも注意が必要です。

【水 稲】葉いもちの発生は、前年より少ないもののズリコミ症状となっているほ場も見受けられます。穂いもちの発生は、収量・品質・食味低下につながるので、予防防除が重要です。また、斑点米カメムシ類の防除もあわせて実施しましょう。

【果 樹】予察灯へのカメムシ類の誘殺数は平年並みですが、山沿いの園地等被害にあいや
すい場所を見回り、集団的な飛来を確認した場合には速やかに防除を行いましょ
う。

りんごの斑点落葉病や褐斑病等の感染拡大を防止し、高温乾燥が続く場合には、ハダニ類の急増に注意しましょう。

【野菜】トマトでは、葉先枯れの増加と気温低下とともに灰色かび病が増加するので、被害葉の早めの除去や多湿を避けるための下葉かき等の通風改善にも取り組みましょう。

ほうれんそうでは、高温期にアブラムシの発生、気温が低下するとケナガコナダニやべと病の対策が重要となります。

○主な病害虫の発生状況及び今後の予測（８月） 防除時期

病害虫名 発生量		発生消長の一例・防除時期の目安									防除上の注意事項等	
		8月						9月				
		1半旬	2半旬	3半旬	4半旬	5半旬	6半旬	1半旬	2半旬	3半旬		
水 稲	穂いもち										葉いもちが発生していなくても穂いもちが発病することもあるので、予防防除を実施する。 近年、8月の天気が不安定で、長雨となることもあるので、防除適期を逃さない。	
	発生量：やや多	↓		↓								
	紋枯病		↓									気温が高く、雨が多い気象条件や過繁茂な生育状況は、発病を助長する。 上位葉まで病斑が進展すると、品質や収量の低下を招くことがある。 8月上旬中に斑点米カメムシ類と同時期に防除する。 雨が少なく、高温が続くと収穫間際まで増加がみられ、発生が多くなる年が近年は多い。
	発生量：並											
	セジロウンカ											
	発生量：並											
斑点米カメムシ類										2回防除が効果的である。 <水和剤・フロアブル等の散布時期> 1回目：出穂7日後 2回目：1回目の防除7～10日後		
発生量：やや多	↑		↑									
果 樹	果樹カメムシ類		↑		↑						予察灯への誘殺は、通常8月上旬をピークに気温低下とともに減っていくが、発生の多い年は、8月下旬まで多く誘殺される。	
	発生量：並											
	リンゴ斑点落葉病	← 定期防除 →									梅雨明け以降、気温が高くなると増加は一旦治まるが、8月中の防除は重要である。 果実にも病斑がみられるようになる。	
	発生量：並											
	リンゴハダニ類											高温乾燥が続くと多発する可能性が高い。 リンゴハダニは、6月頃から樹全体に分散して、夏の7月～8月に増加し、多発は肥大や糖度等に影響がある。 9月末頃から越冬卵を産むようになり、卵で越冬する。
発生量：やや多		↑										

病害虫名 発生量		発生消長の一例・防除時期の目安									防除上の注意事項等
		8月						9月			
		1半旬	2半旬	3半旬	4半旬	5半旬	6半旬	1半旬	2半旬	3半旬	
ホウレンソウ	べと病										盆過ぎ以降の気温低下に注意する。
	発生量:並										8月中の発生は稀ではあるが、感受性品種では1作1回程度の防除に努める。
	ケナガコナダニ										餌となる有機物の多用は避ける。
	発生量:並										盆過ぎ以降の気温低下とともに被害の増加がみられる。 発生予測は難しく、どのハウスで発生するかも予測するのが難しいので、定期防除に心がける。
トマト	灰色かび病										葉先枯れ除去は重要作業の一つである。
	発生量:並										収穫ピークと重なって、この作業ができていない場合は被害が拡大しやすい。
	すすかび病										樹勢低下や高温・多湿で発生しやすい。
	発生量:並										栽培期間終了後の資材消毒は、次年度の対策に有効である。
野菜全般	タバコガ類										防虫ネットで被覆していても隙間から侵入することがあるので、幼虫を確認したら防除を実施する。
	発生量:並										露地栽培では、幼虫発生初期に防除を実施する。
	アブラムシ類										高温乾燥が続くと多発する可能性が高い。
	発生量:並										寄生を確認し、少発生の段階で農薬散布を実施する。 ハクサイやキャベツ等秋野菜の定植時の粒剤散布は、1か月程度は抑制できる。

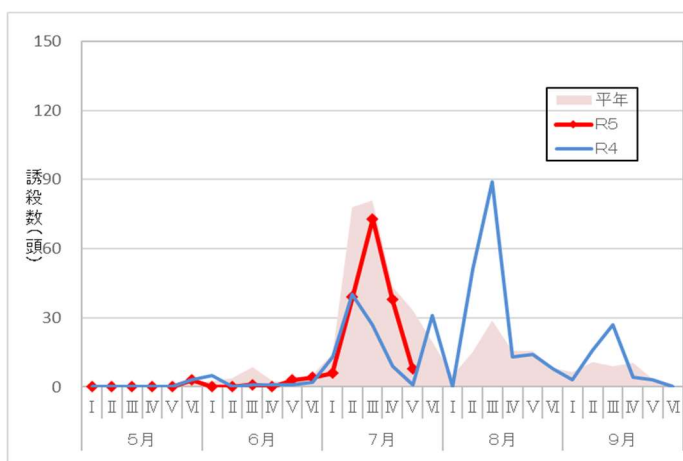


図1 予察灯によるアカスジカスミカメ誘殺数の推移
(高山市国府町)

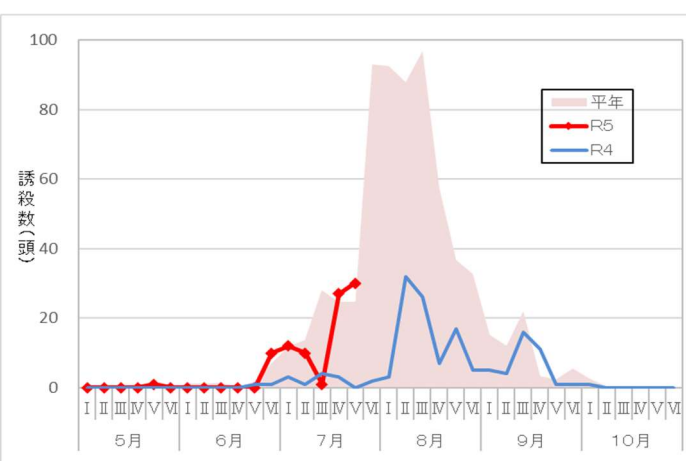


図2 予察灯によるクサギカメムシ誘殺数の推移
(高山市国府町)

東海地方1か月予報(7/29~8/25) 名古屋地方気象台 7月27日発表

向こう1か月の気温は高いでしょう。降水量はほぼ平年並、日照時間は平年並が多い見込みです。

期間の前半は、雲が広がりやすい日もありますが晴れる日が多く、期間の後半は、平年と同様に晴れの日が多いでしょう。

岐阜県病害虫防除所では、この他に病害虫の詳細な調査データをホームページにて公開しています。(トップページQRコード→)

<https://www.pref.gifu.lg.jp/page/2934.html>

飛騨支所 〒506-8688 高山市上岡本町 7-468

TEL (0577) 33-1111(内線 245) FAX (0577) 34-2706



トップページ



BLASTAM
(いもち病情報)

6~8月は「農薬危害防止期間」です。農薬ラベルの表示事項の遵守と周辺環境への飛散防止を徹底しましょう。